
10 品目別調査結果 ピーマン

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

1. 概況

325

調査結果概要（1/3）

1. 各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産ピーマンの作付面積と出荷量は、震災以降、減少傾向にあり、令和3年度はそれぞれ震災前の約80%の水準まで落ち込んでいる。

卸売段階

- 福島県産ピーマンは、主に首都圏で取り扱われており、少量であるが関西圏にも流通している。北海道や名古屋といった地域にはほぼ流通していない。
- 東京都中央卸売市場において、7月～10月の期間は他の時期に比べて福島県産ピーマンのシェアが増え、東京都中央卸売市場での取扱量は最大15%を占めている。

326

2. 各取引段階の“価格”の変化

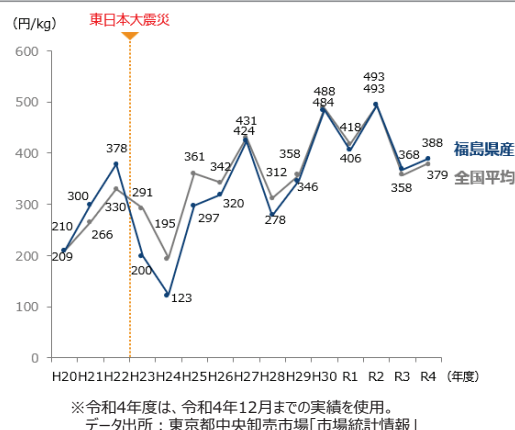
市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの価格は、震災後に全国平均の価格ポジションを下回るようになった。
- 震災後4年間は、明確に競合県産よりも安い価格で推移していた。
- 平成29年度以降、全国平均に近い水準で推移しており、令和3年度以降は全国平均を上回った。

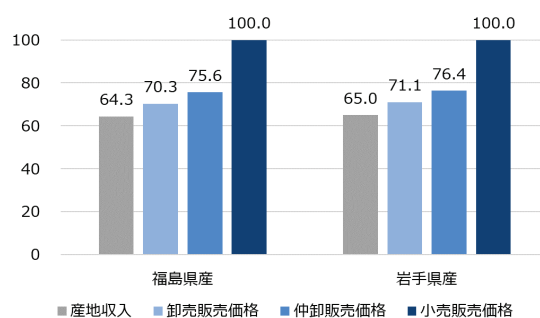
個別事例における状況

- 首都圏で福島県産ピーマンと岩手県産ピーマンを併売する小売業に至る流通経路を対象に、流通段階ごとの取引価格を調査した。
- 福島県産と岩手県産の価格形成を比較すると、取引価格はすべての段階で近い値であった。
- 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定していた。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



ピーマンの価格形成事例



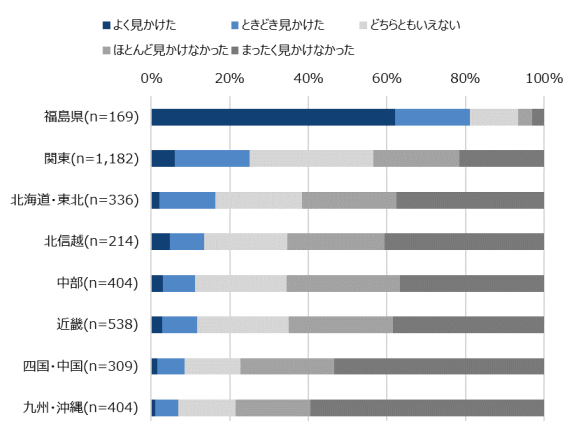
327

3. 福島県産品に対する認識

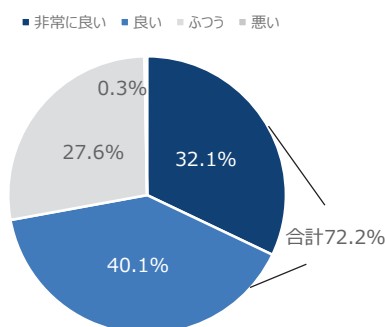
消費者への調査

- 福島県産ピーマンを店頭でよく見かけたという人の割合は、福島県で約60%である一方、他の地域では10%に満たなかった。
 - 福島県産ピーマンを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.4%であった。
- 福島県産ピーマンの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が72.2%であった。

福島県産ピーマンを店頭で見えたか



福島県産ピーマン購買者の評価 (n= 352)



328

2. 調査実施概要

329

調査の全体像

概要調査として行政機関の統計データ等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	- 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 - 市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。	消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。	- 訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 - 競合県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	- 行政機関の統計データ。 - 卸売市場データ。	全国の消費者。(5,500人)	- 袋入りのピーマン。 - 福島県産以外に他県産も扱う事業者を対象に含める。
調査内容	- 福島県産ピーマンの出荷量。 - 卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移。 - 卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。	- 福島県産ピーマンの視認経験。 - 福島県産ピーマンの購買経験。 - ピーマン購買時の重視点。 - 福島県産ピーマンの評価。	流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	各取引段階の“量”の変化 各取引段階の“価格”の変化	福島県産品に対する認識	各取引段階の“価格”の変化

330

各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査
使用データ

- ・農林水産省「野菜生産出荷統計」。
- ・首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ。

アンケート
調査

- ・全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
 - 5,500件を回収し、分析を実施した。

追跡調査

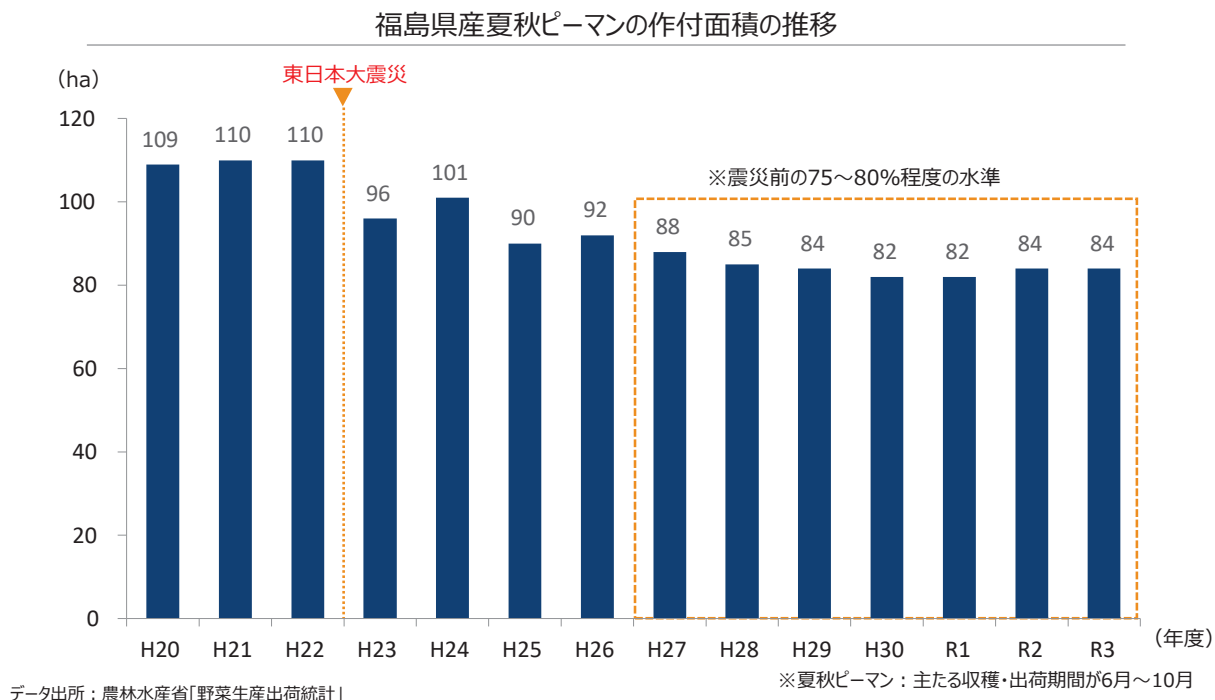
- ・首都圏の小売業に至る2ルートと、福島県内の小売業に至る1ルートを対象とし、事業者を訪問して価格データを収集。
- ・首都圏の1ルートでは競合県産品の価格データも収集。

※追跡調査では個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から価格データを受領。 331

3. 各取引段階の“量”の変化

福島県産夏秋ピーマンの作付面積の推移

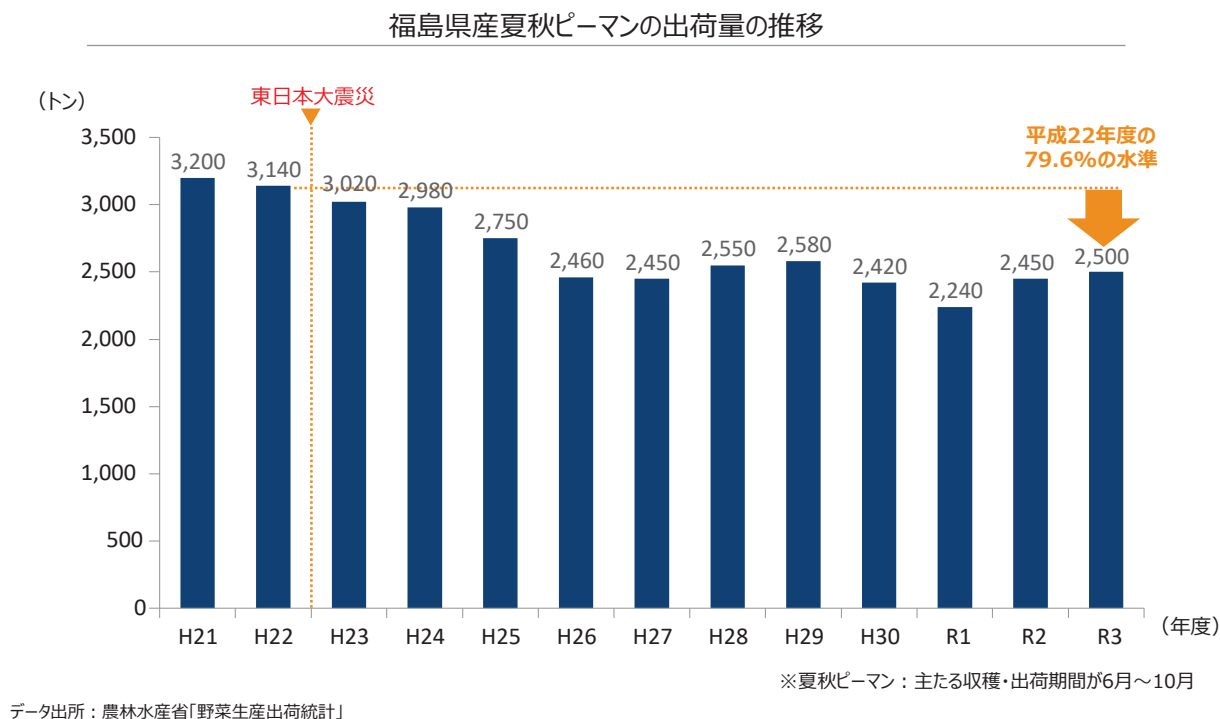
福島県産夏秋ピーマンの作付面積は、震災直後に約10%減少した。その後一時的に増加した年があったものの、全体的に微減が続いており、令和3年度は震災前の約76%となっている。



333

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移

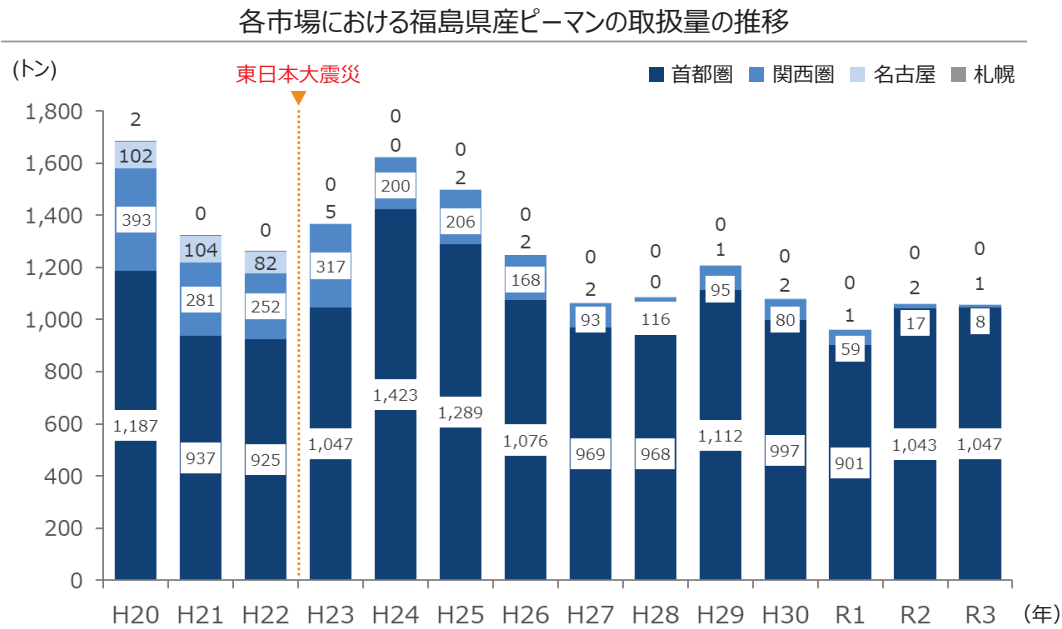
福島県産夏秋ピーマンの出荷量は減少傾向にあったが、平成26年度以降はおおむね横ばいで推移している。令和3年度の出荷量は、平成22年度の79.6%であった。



334

各市場における福島県産ピーマンの取扱量の推移

福島県産ピーマンは、主要地域の卸売市場の中では、主に首都圏で取り扱われており、少量ではあるが関西圏にも流通している。



データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※数値ラベルは、下から首都圏、関西圏、名古屋、札幌の取扱量を表す。

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和3年産・首都圏)

東京中央卸売市場、横浜市中心卸売市場のいずれにおいても、7月～10月の期間は他の時期に比べて福島県産ピーマンのシェアが増加。それ以外の月では、福島県産ピーマンの取扱いはほとんど見られなかった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

東京都中央卸売市場

各月で市場シェア1位～3位の順に色付け

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	7%	15%	12%	7%	0%	0%	983
茨城	11%	17%	37%	55%	69%	80%	47%	19%	30%	49%	51%	27%	11,249
宮崎	54%	49%	37%	26%	17%	5%	2%	1%	0%	3%	26%	45%	5,102
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	6%	32%	54%	49%	31%	2%	0%	4,194
高知	20%	19%	15%	10%	9%	6%	1%	1%	0%	4%	12%	14%	2,198
鹿児島	14%	13%	10%	7%	5%	0%	0%	0%	0%	1%	8%	13%	1,369
総量	1,603	1,513	2,126	2,530	2,646	2,309	2,185	2,419	2,494	2,465	2,041	1,765	

横浜市中心卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	5%	3%	2%	0%	0%	64
茨城	7%	13%	29%	39%	42%	60%	36%	17%	21%	33%	35%	20%	1,429
岩手	0%	0%	0%	0%	0%	7%	34%	51%	48%	35%	5%	1%	850
高知	37%	37%	29%	22%	20%	14%	2%	1%	1%	6%	28%	33%	793
鹿児島	37%	32%	29%	25%	22%	0%	0%	0%	0%	1%	11%	28%	626
韓国	11%	12%	10%	10%	10%	14%	11%	7%	3%	5%	12%	13%	442
総量	255	266	378	438	460	386	421	508	519	433	344	301	

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和3年産・関西圏)

大阪市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ピーマンの取扱いは見られなかった。
京都市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ピーマンの取扱いはわずかであった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

各月で市場シェア1位～3位の順に ■ ■ ■ で色付け													
大阪市中央卸売市場													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
宮崎	59%	57%	48%	51%	48%	33%	13%	5%	2%	15%	48%	60%	1,839
高知	23%	25%	26%	19%	22%	21%	5%	3%	2%	14%	27%	26%	900
青森	0%	0%	0%	0%	0%	1%	25%	36%	40%	28%	2%	0%	758
兵庫	0%	0%	0%	0%	0%	3%	14%	17%	16%	11%	2%	0%	356
総量	298	269	386	508	585	462	567	642	557	530	398	393	

京都市中央卸売市場													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%	8
宮崎	62%	58%	53%	53%	49%	21%	7%	2%	2%	14%	42%	57%	1,156
大分	0%	0%	0%	0%	4%	40%	68%	63%	44%	24%	4%	0%	921
高知	24%	25%	23%	19%	18%	12%	2%	1%	2%	14%	27%	23%	521
茨城	0%	0%	12%	18%	21%	21%	5%	5%	23%	29%	15%	4%	518
韓国	8%	6%	6%	5%	5%	5%	6%	5%	1%	5%	10%	7%	208
総量	196	174	271	356	392	396	424	354	340	311	276	221	

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

337

各市場におけるピーマンの産地リレー(令和3年産・その他)

名古屋市中央卸売市場では、年間を通して福島県産ピーマンの取扱いはほとんど見られなかった。札幌市中央卸売市場では年間を通して取扱いは見られなかった。

各市場における産地リレー(令和3年産)

各月で市場シェア1位～3位の順に ■ ■ ■ で色付け													
名古屋市中央卸売市場													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1
鹿児島	57%	58%	57%	43%	36%	6%	0%	0%	0%	11%	39%	56%	1,863
茨城	0%	0%	2%	20%	32%	59%	41%	5%	26%	35%	29%	1%	1,434
宮崎	34%	30%	29%	26%	20%	13%	19%	14%	4%	8%	21%	30%	1,299
北海道	0%	0%	0%	0%	0%	2%	25%	39%	29%	22%	2%	0%	625
高知	10%	10%	11%	10%	11%	20%	7%	1%	1%	5%	11%	12%	595
総量	411	382	552	712	781	621	536	547	517	474	447	433	

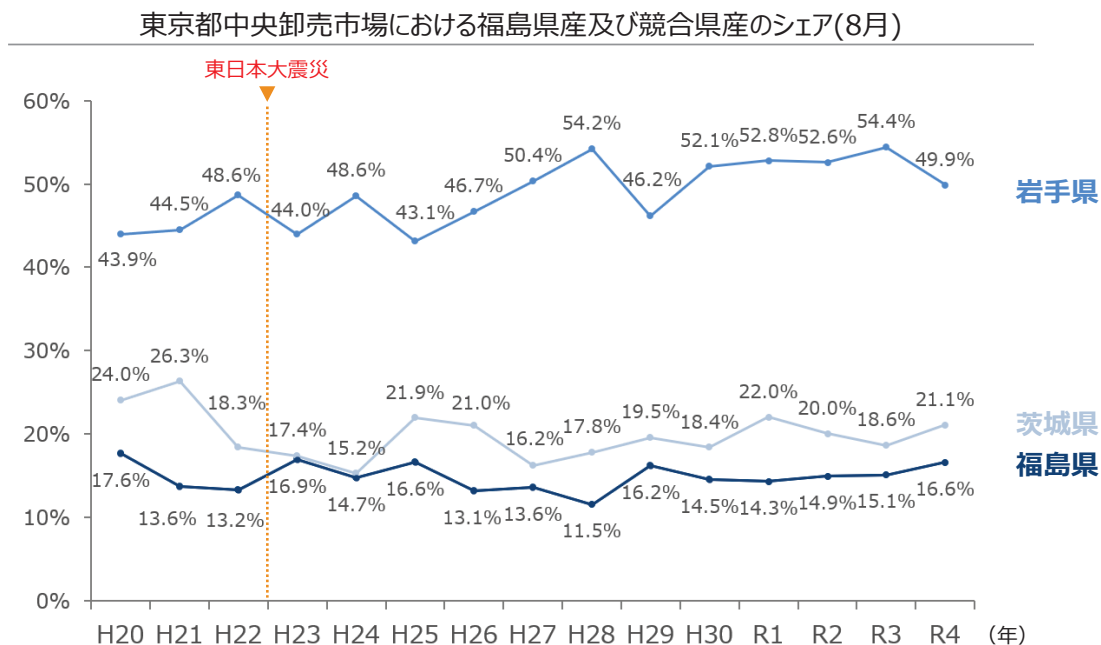
札幌市中央卸売市場													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
北海道	0%	0%	0%	0%	0%	66%	98%	97%	100%	97%	26%	0%	1,080
宮崎	90%	93%	90%	79%	60%	16%	1%	0%	0%	2%	65%	92%	895
茨城	0%	0%	1%	12%	31%	17%	0%	3%	0%	1%	2%	0%	125
高知	7%	5%	7%	7%	8%	0%	0%	0%	0%	1%	8%	8%	82
鹿児島	2%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	8
総量	123	118	155	197	202	148	268	273	222	197	159	135	

データ出所：各卸売市場の提供データ及び農畜産業振興機構「野菜情報総合把握システム」

※福島県及び年間取扱量上位を表示。
※総量・合計の単位はトン。

338

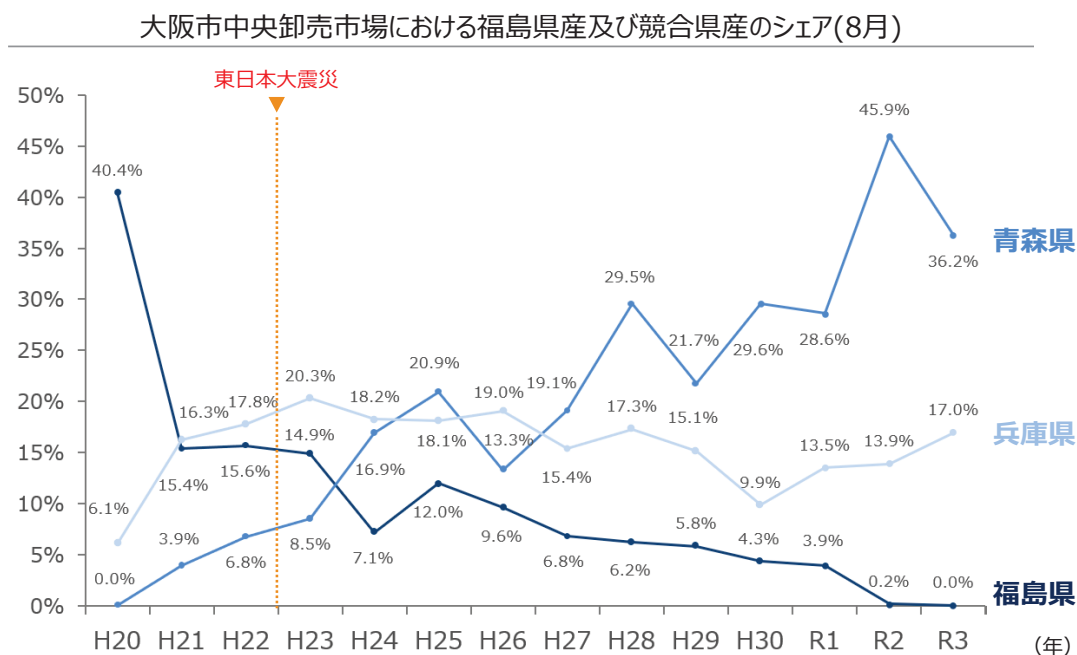
東京都中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンのシェアは、震災前から大きく変動しておらず、15%前後のシェアで推移している。



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

339

大阪市中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンのシェアは、震災以降、徐々に減少し、令和2年以降はほぼ取り扱っていない。一方で、震災前は福島県産よりもシェアが低かった青森県産は、平成24年に福島県産を上回り、令和3年は36.2%のシェアとなった。



データ出所：大阪市中央卸売市場からの提供データ

340

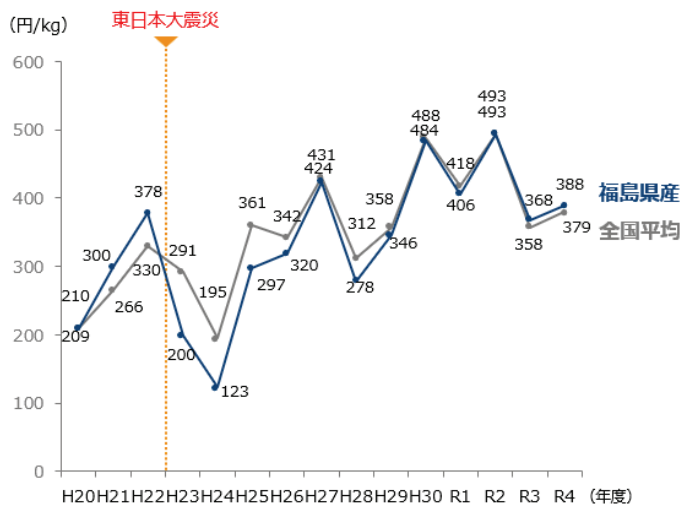
4. 各取引段階の“価格”の変化

341

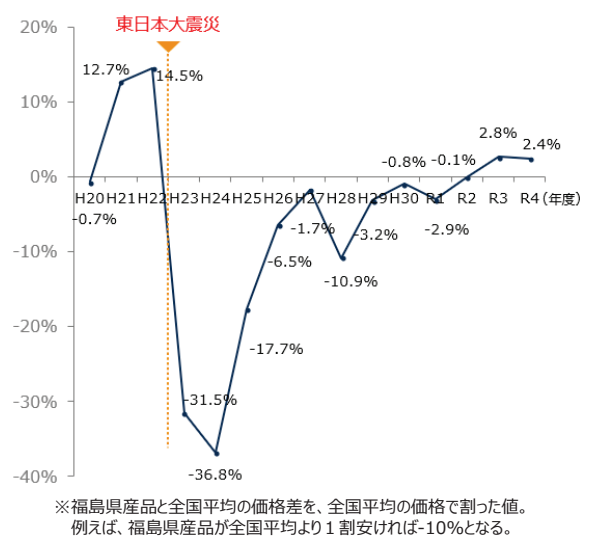
価格の概況（全国平均との価格差）

東京都中央卸売市場での福島県産ピーマンの平均単価は、平成29年度以降、全国平均に近い水準で推移しており、令和4年度は前年度同様に全国平均を上回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



全国平均と福島県産品の価格差の推移

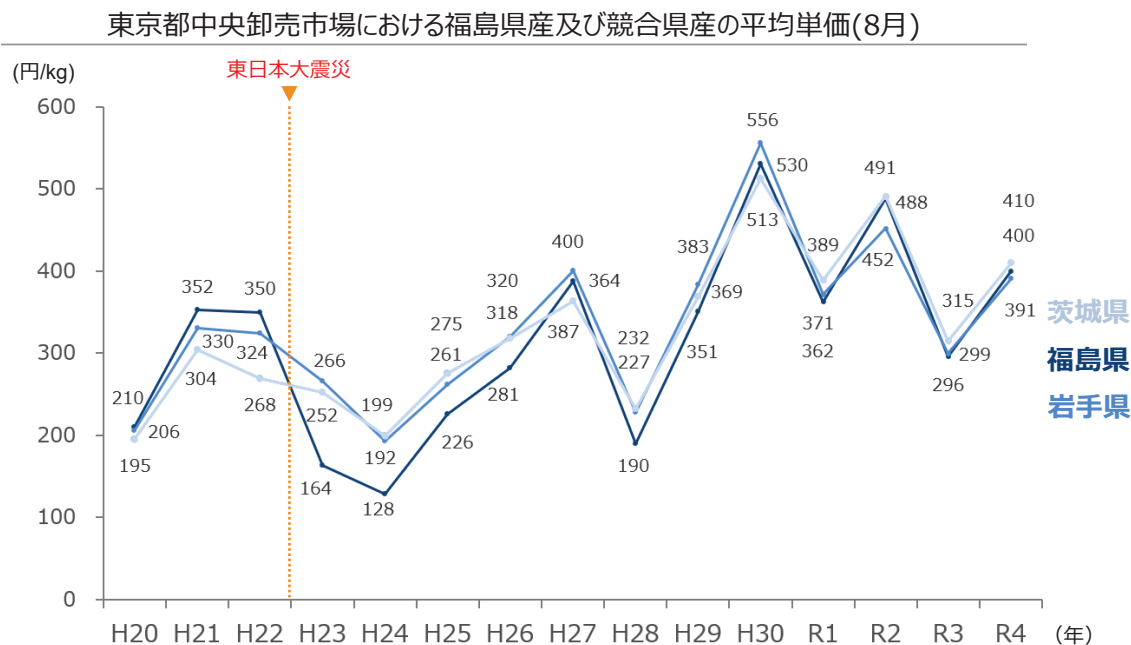


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7～9月の平均価格）

342

東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの単価の推移

東京都中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災後、岩手県産・茨城県産よりも低い水準で推移していたが、近年では同程度の水準である。

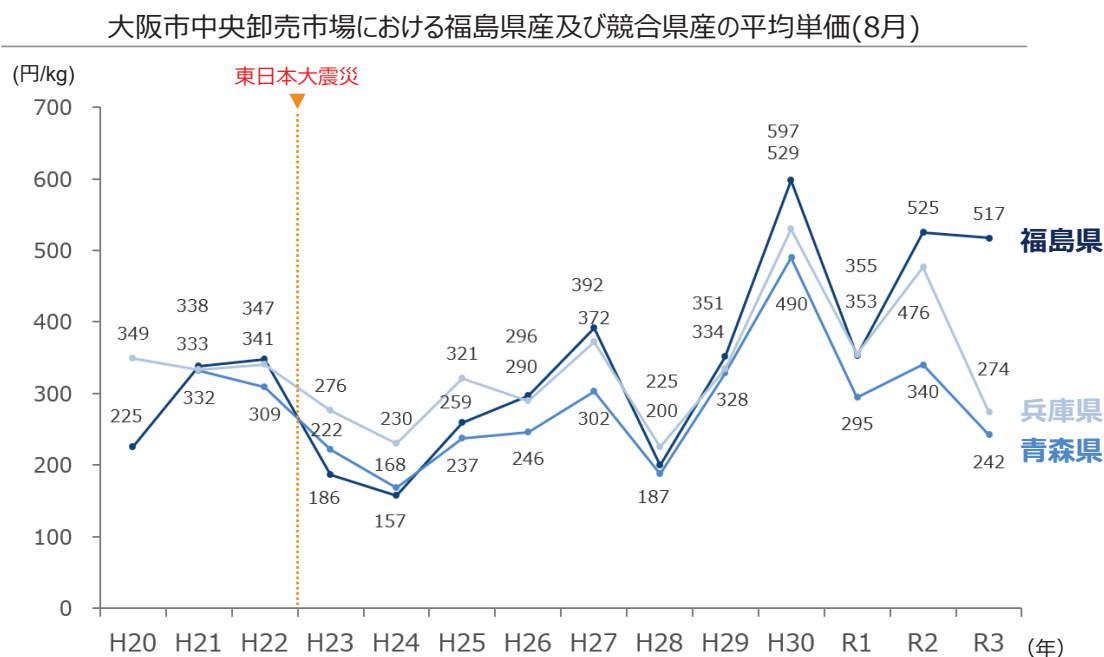


データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

343

大阪市中央卸売市場における福島県産ピーマンの単価の推移

大阪市中央卸売市場の8月の福島県産ピーマンの平均単価は、震災直後に兵庫県産・青森県産を下回る水準となった。その後、価格ポジションは変化し、令和2年以降はこれらの産地の平均単価を上回っている。



データ出所：大阪市中央卸売市場からの提供データ

※平成20年は青森県のデータなし。

344

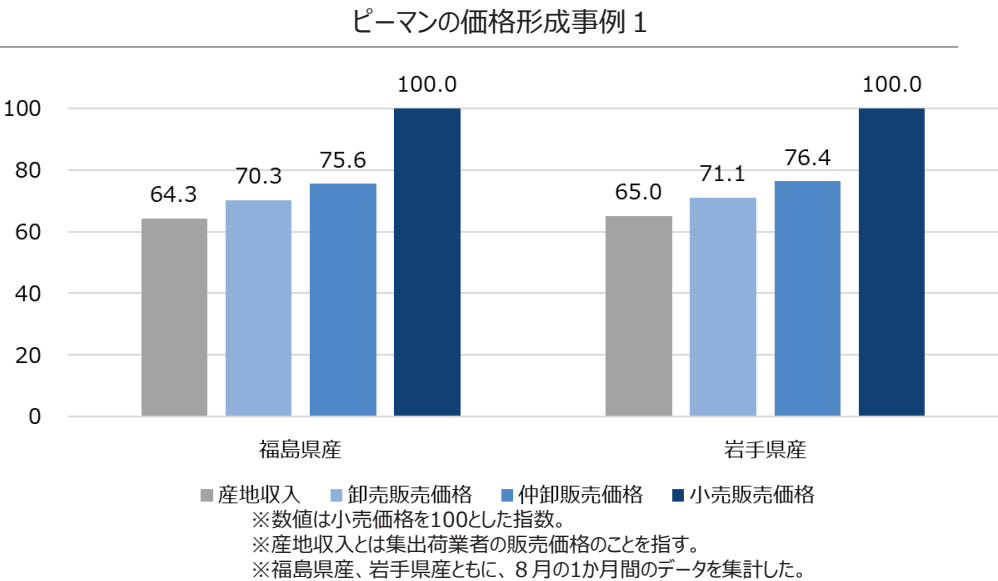
価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産ピーマンの価格形成に関する分析を実施した。

概要	
概要・目的	- 取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る情報を収集し、価格形成の実態を把握する。 - 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
対象商品	袋入り150 g のピーマン。
対象期間	期間：令和4年8月
調査ルート	- 首都圏内の小売業者へ流通するルート：2ルート。 - うち1ルートは競合産地産の価格も収集。 - 福島県内の小売業者へ流通するルート：1ルート。

345

ピーマンの価格形成事例 1

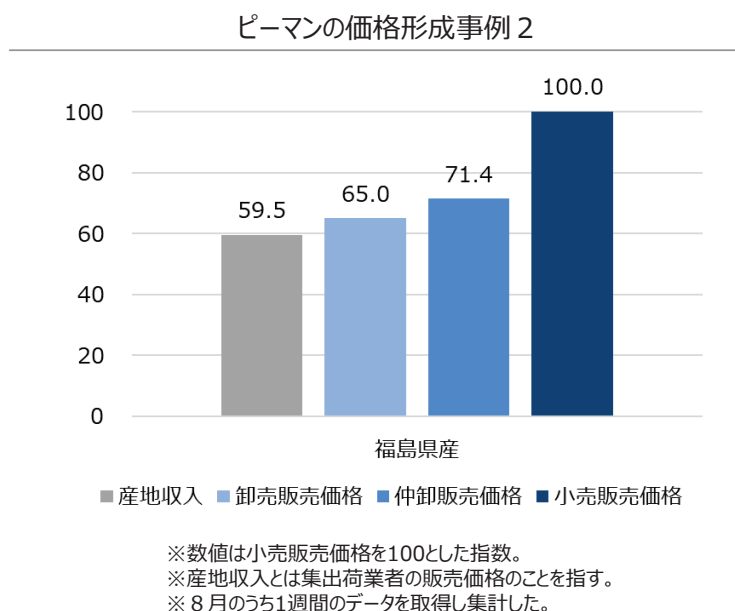
- 首都圏の小売業者に至る事例。
 - 本事例の小売業者は特売時を除き、調査時期にピーマンの販売価格を固定していた。
 - 卸売業者は委託手数料率8.5%で委託販売していた。そのため産地収入は、卸売販売価格に比例している。
 - 福島県産と岩手県産の価格形成と比較すると、取引価格はすべての段階で近い値であった。
 - ・ 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定。
 - ・ 卸売業者と仲卸業者の販売価格も基本的に産地によって変えてはいなかった。



346

ピーマンの価格形成事例 2

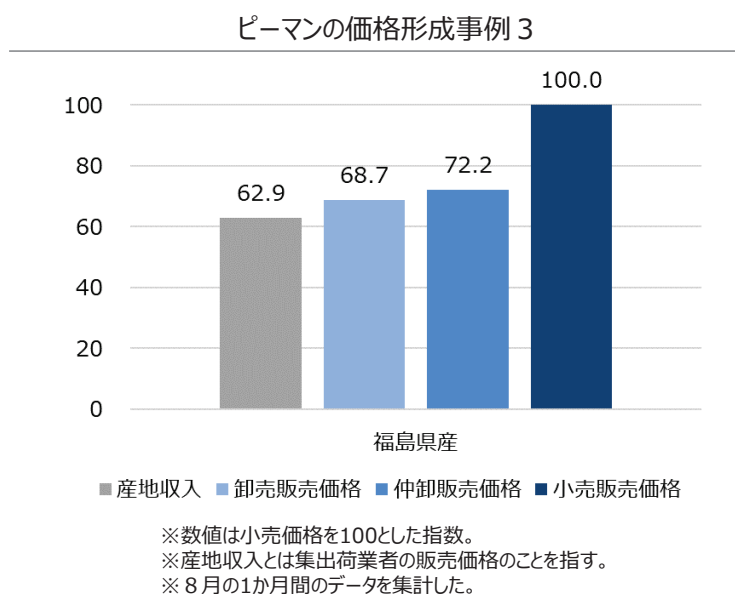
- 首都圏の小売業者に至る事例。
 - 小売業者と仲卸業者の販売価格は相場によって変動していたが、卸売業者は委託販売をしており委託手数料率は8.5%で固定。
 - 事例 1 と同様に、産地収入は卸売販売価格に比例している。



347

ピーマンの価格形成事例 3

- 福島県内の小売業者に至る事例。
 - この事例では、小売業者は価格設定を店舗に任せており、店舗によってマージンは異なる。
 - 仲卸業者は、常に卸売業者からの仕入価格に 5 % を乗せて小売業者に販売。
 - 卸売業者は委託販売をしており、産地によらず委託手数料率は8.5%で固定。
- 事例 1、2 と同様に、産地収入は卸売販売価格に比例する。



348

いずれの事例でも卸売業者は委託販売をしており、産地収入は卸売業者の販売価格に比例していた。また、競合産地との比較では、価格形成に明確な違いは見られなかった。

- 各事例の共通点として、産地の収入は卸売販売価格に比例していた。
 - すべての事例で、卸売業者は委託販売をしており、委託手数料率は8.5%で固定されていた。
 - 事例によって小売業者や仲卸業者のマージンは異なるが、それらに関わらず、産地収入は卸売業者の販売価格に比例している。
 - 産地収入を上げるためには、卸売業者に高く売ってもらうことが重要といえる。
- 今回調査した事例では、競合産地との明確な違いは見られなかった。
 - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定していた。また、卸売業者や仲卸業者のマージンも、基本的には競合産地と同一であった。

349

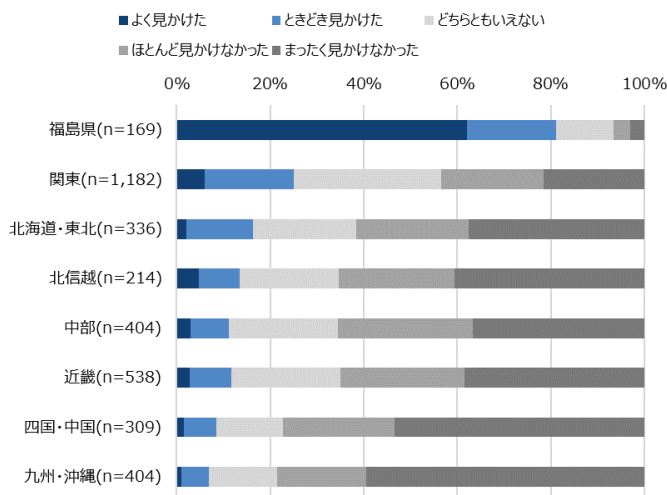
5. 福島県産品に対する認識

350

福島県産ピーマンを見た経験と購買経験（消費者アンケート）

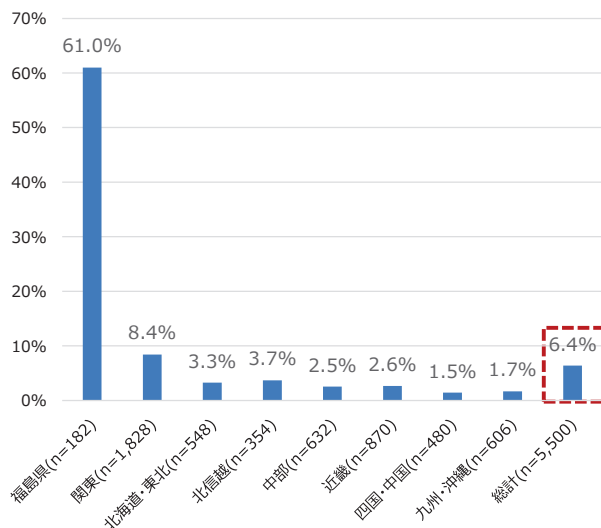
福島県産ピーマンを店頭でよく見かけた人の割合は、福島県で高く、他の地域では10%に満たない。福島県産ピーマンを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では6.4%であった。

福島県産ピーマンを店頭で見たか



※過去1～2年に、店頭で福島県産ピーマンを見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産ピーマンの購買経験率



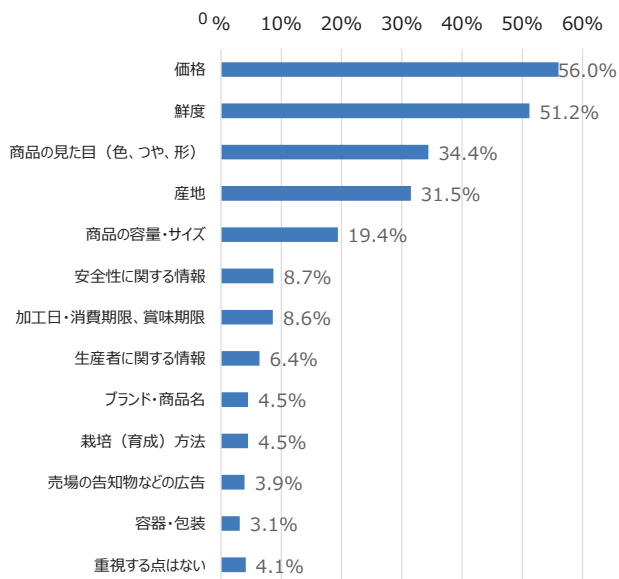
※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

351

ピーマン購買時の重視点と購買者の評価（消費者アンケート）

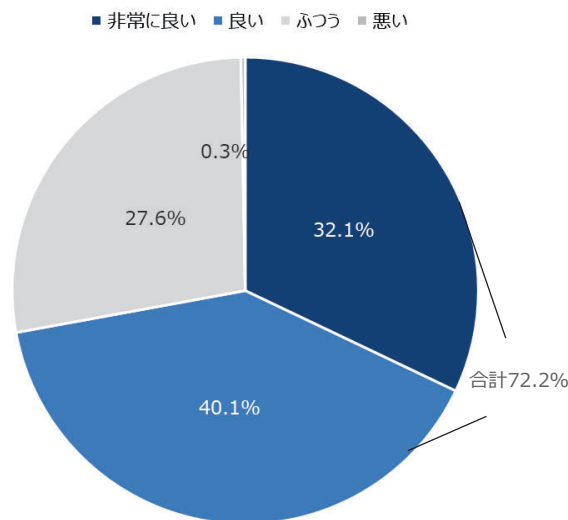
福島県産に限らず、ピーマン購買時の重視点を尋ねたところ、「価格」が上位にあがり、次いで「鮮度」があがった。福島県産ピーマンの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が72.2%であった。

ピーマン購買時の重視点（n=4,250、複数回答）



※ピーマン購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上ピーマンを購買している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ピーマン購買者の評価（n=352）



※福島県産ピーマンを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。

352